



'To acknowledge the duty that accompanies every right'
 Affiliated with the International Association of Y's Men's Clubs

THE OSAKA CENTENNIAL

OSAKA YMCA
 1-5-6 TOSABORI, NISHIKU,
 OSAKA, JAPAN

2020年5月 No.456
 Chartered July 20, 1982

主 題 Y's THEME (2019~2020)	クラブ役員 Officers
センテニアルクラブ会長 : 『40周年に向けた一歩』 国際会長 : 『より良い明日のために今日を築く』 アジア太平洋地域会長 : 『アクション!』 西日本区理事 : 『風となれ、ひかりとなれ』 中西部部長 : 『為せば成る』	会 長 : 中村 茂高 副会長 : 三浦 直之 書 記 : 大村 肇 ドライバー : 大村 肇 会 計 : 岡本 剛介 ネット会長 : 中村 幸枝 YMCA 連絡職員 : 長尾 聡

Biblical Message of May

「地の塩、世の光」

(マタイによる福音書 5章 13節)

新型コロナウイルスの波紋

山中 秀男

4月24日、ロンドンに住むコメット圭とスカイプで話しました。毎晩8時からコロナウイルス患者を収容している病院の勤務者の医者、看護師を激励するエールの会に出掛けるのだと。英国では最初、コロナの猛威がさほどではなかったのですが、4月に入り徐々に感染者が増えだし、ジョンソン首相が感染、入院、集中治療室治療で一気に危機感が増しました。

昨日のBBCでも、日本と同様に医療崩壊の危機を報じ、看護婦の一人にインタビューしていました。食事も睡眠も十分に取れず、家に残している家族、特に子供二人の生活が気になるが、彼らにはお母さんは現在目の前の患者の為に、力を振り絞って治療に当たっています。コロナウイルスは毒性が強く死ぬかも分かりません。しかし誰かがしなければいけない仕事を立派にやり遂げたと誇りに思って下さいと伝えたと気丈に語っていました。

次頁に続く

May Club Meeting

『Leadership-training』

5月第1例会 (新型コロナの影響で中止)

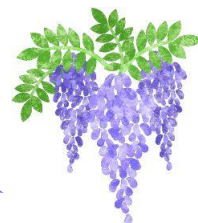
- 日 時: 2020年5月20日(水) 18:30~20:30
 場 所: ホテルグランヴィア大阪
 司 会: 芝田 光雄 君
- 開会 中村 茂高 会長
 - ワイズソング 一同
 - 聖句朗読 三浦 直之 君
 - ゲスト・ビジター紹介 中村 茂高 会長
 - 今月の強調月間 中村 茂高 会長
 - 晚餐 一同
 - 卓話「日韓文化交流を考える」
藤井 幸之助・同志社大講師
 - 誕生祝い・ニコニコ献金 一同
 - 連絡・報告 各メンバーから
 - 閉会 中村 茂高 会長

お誕生日: 隅田メン

5月第2例会

- 日 時: 2020年5月27日(水) 18:30~20:30
 場 所: 土佐堀YMCA会館4階

近くの公園で藤の花が
 きれいに咲いています



4月	種 別	第1例会 (中止)	第2例会 (中止)	BFポイント	ニコニコ献金
在籍会員 18名	メ ン	0名	0名	4月	4月
例会出席 0名	メネット	0名	0名	現 金	0円
うちメーキャップ	ビジター	0名	0名	累 計	
0名	ゲ ス ト	0名	0名	切 手	204g
出席率 0%	合 計	0名	0名	現 金	0円
					累 計: 73,200円
					オケヨシ 1,500円

コメント圭は現在、障害児童の教育という技能を活かして、ロンドンの学園で特殊学級の先生をしており、当然学校は休校していますが、病院勤務の方の小学校の子供さんの介護を全校、全先生が手分けし、スケジュールを組んで奉仕しています。今朝の NHK ニュースで、京大ノーベル賞の山中教授がコロナに対する注意と共に、嘆かわしいのは、コロナ治療に当たっている医者、看護師の子供が「学校であの子に近づくと、コロナに感染すると虐めに会っている」と嘆いておられました。

ロンドンでのエールの様子を、孫コメントの嘉斎・トランス・ピーターセンに聞いたところ、最初エールでは、「頑張れ」「有難う」は拍手だけでしたが、最近音の出るものは何でも OK で、「今夜は家にある一番大きな鍋に、一番大きなスプーンを重ねて鳴らすのだ」と意気込んでいました。

【今月の聖句】

あなた方は地の塩である。だが、塩に塩気がなくなれば、その塩は何によって塩味が付けられよう。もはや、何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけである。あなたがたは世の光である。山の上にある町は、隠れることができない。また、ともし火をともして灯の下に置く者はいない。燭台の上に置く。そのように、あなた方の光を人々の前に輝かしなさい。人々が、あなたがたの立派な行いを見て、あなたがたの天の父をあがめるようになるためである。

(マタイによる福音書 5章 13節)

塩は人間や動物にとって生命維持に必要な欠くべからざるものです。その働きは食べ物の味付け、保存、毒消し等の重要なものがあります。又、歴史的には戦略物資(塩留等)としても使われていました。

私たち一人ひとりが塩と同じように大事な役割を担っていることを改めて思うことが大事ではないでしょうか。又、私たちは自ら光を放つ存在であると教えています。心の窓にともし火をということで、光をともし続けたいと思います。

(聖句選・コメント：三浦 直之)

およそ 180 年前に疫病と対処法を予言した妖怪で、新型コロナに苦しむ日本に突如起こった「アマビエ」ブーム

YMCA ニュース

みなさま、今年度連絡職員として活動させていただきまず長尾聡(ながお・さとる)と申します。いつも YMCA をお支えいただきありがとうございます。現在の危機的状況をともに乗り越えていければと思いますので、今後ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

■YMCA 共同の祈り ビデオ会議による礼拝のご案内 (500人可能)

(隔週金曜日・18:00-18:30)

第3回 5月8日(金)「ユースの声を聴く」

第4回 5月22日(金)「世界のYMCA、そして女性」

第5回 6月12日(金)「会員・ワイズメンズクラブと共に」

*対象：YMCA スタッフ・講師・会員・ユースリーダー・学生 YMCA・学生・ワイズメン、YWCA その他関係団体・協力者

■現在土佐堀会館では、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、入館制限を行っています。もし、ご来館のご予定がある場合は事前にご連絡ください。

(長尾 聡)



谷川 寛

3月の終わり、スイスからメールが届きました。昔、ワイス国際本部のISG(国際書記長)Ingvar Wallinからのメールでした。ジュネーブから離れカントリー生活を楽しんでいる彼ら夫婦のところにも世界的コロナ危機は押し寄せ、不自由な生活を強いられています。彼が訳したスウェーデン人の詩が添付されていました。この詩に共感を覚えたので日本語に訳してみました。タイトルは“それは2020年3月だった”(It was March 2020)です。

“それは2020年3月”

街は空っぽ、店は閉められ、誰も外に出ようとしない。今年の春はそれが分からない - 花は咲き始め、太陽は輝き、小鳥は唄っている、間もなく、燕も飛んでくる、空は青色、朝の太陽は早く昇るようになった。

“それは2020年3月”

若い人々はネットで勉強するようになり、屋内で用事を済ませます。人々は外に出て、買い物にも行かれない、美容院にも行かれない。間もなく病院のベッドは満杯で空きがなくなる、人々は次々と病気になる。

今年の春はそれが分からない - 自分の庭に出れば、すべては緑にあふれている。

“それは2020年3月”

人々は自分自身、彼らの両親、祖父母、家族、子供たちを守るため、自分を彼らから隔離する。家族との日曜食事会や、パーティーもない。不安が現実となり、単調な毎日の繰り返しが続く。今年の春はそれが分からない - リンゴの木、サクランボの木は、他の木と同じように花が咲きほこっている。樹々の青葉は益々その青さを増している。人々は読書に勤しみ、家族だけでゲームをし、新しい外国語を学び、友達に電話し、自分の家のバルコニーで歌う。人々は、どうやって楽しむかを学び、一緒になるかを学んだ。人々は、健康がいかに大事かを理解し始めた。そして、多くの人々が病気になるに苦しみ、問題を抱えていることや、世界経済が揺るぎ始めたことに気づき始めた。

今年の春はそれを知らない - 花は咲き、果物を実らせ、小鳥は巣をつくり、雛を育てる。遂に燕がやって来た。春は人々に生命の力強さを教えた。すべては上手く行くようになる、家にいなさい、お互いを労りましょう、そうすれば、やがて、今まで通りの生活を楽しめる時が来る。

Ulla Backstrom, March 2020 English translation of Swedish poem by Ingvar Wallin



IT WAS MARCH 2020

The streets were empty, shops closed, no one would go out.
But spring did not understand, and the flowers began to bloom,
the sun was shining and the birds were singing, soon the swallows were coming, the sky was blue.
The morning light came ever earlier.

It was March 2020....

The young people would study via the internet, and do things indoors.
The people could not go out and shop, nor go to the hairdresser.
Soon there was no more room left in the hospitals, and people continued to get sick.

But spring did not understand this, it was time to go out in the garden, everything was green.

It was March 2020....

The people would isolate themselves to protect parents and grandparents, families and children.
No more Sunday meals with the family, no parties.
Fear became realistic and the days went one by one in the same way.

But spring did not understand this, and the apple trees, the cherry trees bloomed like many other trees.
The greenery on all trees turned out more and more.
The people started reading, playing family games, learning a new language,
call friends, sing on the balcony.

The people learned how to find joy and to be together.
The people finally began to understand how important health is, began to realize that many people suffered and had difficulties.

That the world's economy began to tremble.

But spring did not know all this, and the flowers were turned into fruits,
the birds made their nest and chirped, the swallows had arrived.

But spring had taught people the strength of life.
Everything will go well, stay home, take care of you and each other,
and then we will be able to enjoy life.

(Ulla Bäckström, March 2020)

心なごませる一瞬のでき事

新型コロナ感染拡大の状況で前を向いて考えるしかない状況が続いております。

我が家も妻は 4/6~5/6 まで自宅待機。

私は交代制でお店を営業し、現在は週4日、車で通勤しています。

また社員は 3/1 から現在まで休業させています。

そして売上は前年平均の 9 割減です。

というような現状ですが、嬉しいこともありました。

先日の夕方、子どもと公園にも行けない状況ですので、家の前で自転車に乗ったり、スケートボードに乗ったり、ラジコンを走らせたりして子どもと遊んでいますと、近所の男の子が自転車に乗りながら寄ってきて、じっと見ているんです。

あまりに立ち止まってじっと見ているので、「一緒に遊ぼうか?」と声をかけたんです。

ちょうど稜大4歳が姉の莉玖6歳の自転車のサドルを低くして乗ってみたいと言っていたので、サドルを下げて乗らしていたところでした。

次の日のお昼前もまた家の前で遊んでいたんです。

また男の子はやって来たので、今度は自転車で競争したり、紙飛行機を折ってあげ、飛ばし合いっこしたりして一緒に遊びました。

するとお昼ごはんなので帰らないといけないから帰ると言って帰っていきました。

がすぐまた走って来て、子どもたちの名前を聞くんです。

「おねえちゃんが“りく”で、おとうとが“りょうだい”だよ。」と私は伝えました。

「また夕方遊ぼう!」と言って、男の子はお昼ごはんを食べに帰っていきました。

夕方、男の子は遊びに来ませんでした。

家が近所なので、子どもと鬼ごっこをしていると家から男の子が出てきて、手に持った二つ折りの小さな紙を私に「あげる」と言うんです。

「なにこれ?」

「いいからあげる」

「なんなの?」

「いいからあげるって!」

「。。。ありがとう。。。」

とよく分からず手に取り、少し歩いてから二つ折りの紙を開くと、お手紙でした。

その男の子は5歳。

この春の年長さんです。

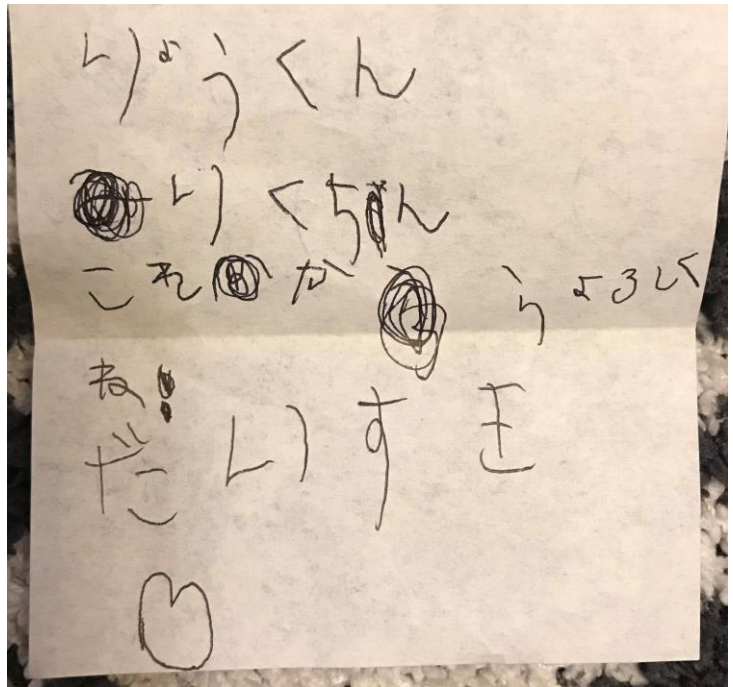
一緒に遊んでいたときは、生意気な言葉になるのに、このお手紙はズルい。

可愛すぎます。

私の中の大人都合の不安が一瞬吹っ飛びました。

が夕方の税理士さんからのメールで現実に戻されました。

岡本 剛介



リモートワークも悪くはないかも

緊急事態宣言を受け、私も自宅勤務を初めて約 1 か月となりました。勤める会社は東京・大阪本社のオフィスを閉鎖、全国の社員も基本的に自宅勤務です。

1 か月間、自宅勤務をしてみて気づいたこと…それは「会社に行ってもです仕事って、ほとんどないかも?!」ということです。パソコンとネットがあれば、どこでも会議が出来ますし、必要な書類はパソコンもしくは手元にあれば困ることもありません。なぜ毎日あんなに時間と労力をかけて、通勤していたんだろう…と思うほどです。

私の会社では、4月から Microsoft Teams を導入し、社員がより気軽に、手軽にコミュニケーションがとれるよう環境整備がされていたので、雑談やちょっとした連絡などの日々のコミュニケーションは殆ど同じようにできています。

仕事とプライベートの区切りが上手くつかず、勤務時間が長引く日もありますが、通勤時間に費やしていた時間や労力を考えると、私はリモートワークの方が生活の質は上がっている気がします。

(もちろん、お子さんがいる家庭はとても大変だと思いますが…)

コロナが収束しても、今まで通りの働き方はもうできないね…と同僚と話しています。

みなさんはいかがでしょう?

花本 茜

Be strong and be kind

皆さんお元気ですか。目に見えないコロナに脅えさせられ、家に閉じこもる毎日です。近くの川原では、春の草花が咲きほこり、桜の花もいつしか散ってしまいました。TV を点けてもどの局もコロナの問題ばかり取り上げいつまでこんな状態が続くのかと案じられます。

そんな中、ニュージーランドの若き女性首相のアーダーンさんがコロナに立ち向かうために国民に向けて発した「Be strong and be kind」気持ちを強く、優しくあれの言葉を発し NZ は早期にロックダウンを実施し、それがうまくいき終息宣言を打ち出すことができました。リーダーは、明確な言葉と決断力で国民との密なコミュニケーションが必要です。今回の彼女のコロナ戦略は世界からも称賛されています。日本も是非こんなリーダーが早く出てきてほしいものですね。

大村 肇

小車多歩を実行！

3月、4月の例会が中止となり特に特に出外することもなく、家の中で大体過ごしています。

体調を崩すこともなく元気にしています。ただ感染が広まる中、外出もままならずうつうつとした気分は少しあります。近所のコンビニやスーパーに主に食料品の買い物に出ることと近所を散歩するくらいです。買い物はいまのところそれほど混雑もなく不自由なく買い物ができる助かります。

ただマスクは売り切れ継続で買えなく。少し不安ではあります。体調を崩さないように小車多歩を実行しています。

1日も早い収束を祈っています。皆様も是非お元気でお過ごしてください。

三浦 直之

早くハネリマカヒキの再開が待ち遠しい！

3月4月とサッパリ仕事が無く無注文状態ですが、得意先の病院だけは色々ご注文頂いていて有難いことに前年度対比とほぼ同じです。

散歩は週に3、4回6~8千歩キープしています。桜も散り、新緑の服部緑地公園が主。

ハネリマカヒキの皆様、バンド連中の仲間といつでもサッと出来る様に楽器の練習時間が増えました。

このコロナ問題が収束して早く皆様と再会し、活動を再開したいですねー。

芝田 光雄

明石の生活を満喫！？

外出好きな私が、テレワークで明石の自宅にこもることになり、とても悩みました。しかし今は明石に中心を置いた生活に頭を切り替えようとしています。

まず、近くに住む小2の孫が運動不足と長男から聞き、毎朝、公園で一緒かけっこやおもちゃチャンバラなど1時間ばかり遊ぶようになりました。夕方、自転車であちこちに出かけるようになり、運動不足を解消しています。

また根拠はないのですが、コロナの影響でひよっとしたら野菜が高くなるのではと思い、ネットで貸農園を探したら、意外とすぐ近くにあることを知り、さっそく契約して、先日トマト、ナス、ピーマンの苗植えを長男家族としました。

3年目の明石の良さを満喫してるかな？

中村 茂高



後記

先ごろ送られてきた5月号「大阪青年」で、大阪 YMCA の小川健一郎総主事は、「新たな挑戦」とし次のように書いています。「作家・星野富弘さんが『渡良瀬川』で、小学生の時、川を泳いで向こう岸に渡ろうとしたら、流れに押し流され思っていた場所とは違ったところに泳ぎ着いたそうです。その時、『何もそこに戻る必要はないのだ』と悟ったとあるのを読み、私たちもコロナに立ち向かうとき、以前に戻るのではなく、新たな社会を作り出しましょう」と。

今、コロナに対する考え方が「終息」というよりも「共存」に変わりつつあるように思います。コロナの影響は私たちの生活にはかり知れない打撃をあたえています。私たちの生活をもう一度見直し、人生を前向きに変えていくチャンスかも知れません。

Shige